

平成21年7月30日

研究成果の発信の 果たす役割

国立がんセンターがん対策情報センター

山本精一郎

第2回新たな治験活性化5カ年計画の
中間見直しに関する検討会(2009.7.30)

国民はなぜ医学研究について知る必要があるのか

- ㊦ 研究の対象者として
- ㊦ 研究結果の恩恵を受けるものとして
- ㊦ 公的研究に対し、納税者の立場として
- ㊦ 医学研究に対し、寄付をする立場として

前提：医学研究について深く理解することにより、
研究がより進み、結果として医療も進む
→研究について理解してもらうためにはどうすればよいか

医学研究に対するイメージに関する 調査の紹介

㊦ 調査概要

- | 全国の20才以上男女個人（インターネットユーザー）
- | 6,752サンプルに配信、有効回収2,234(33%)
- | 調査期間:2009年3月27～31日

㊦ 調査内容(一部抜粋)

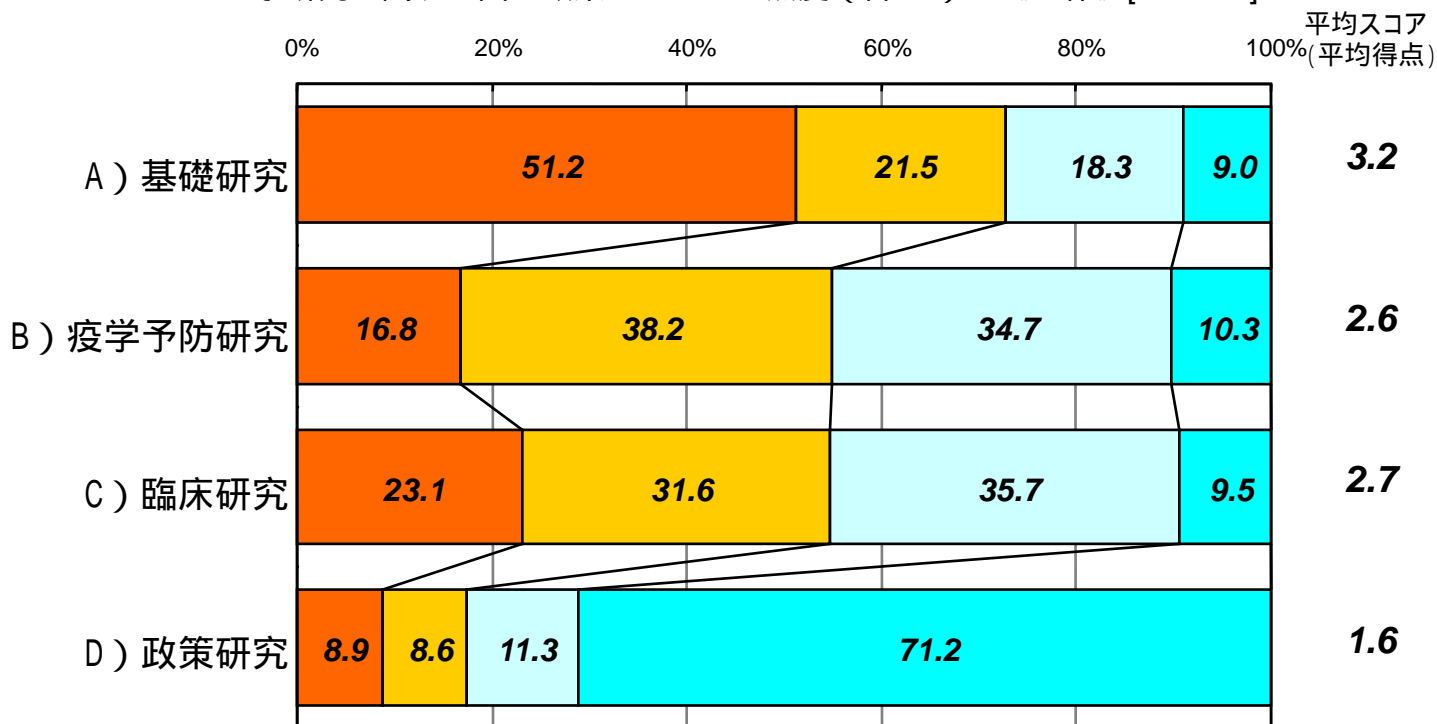
- | 医学研究と聞いて思いつくイメージ、考え
- | 医学研究として、行うべき研究、大切さの程度
- | がんの研究に寄付することについて
 - ⊕（寄付をしていない理由）（100万円を寄付する場合の内訳）
- | 「臨床試験」のイメージ
- | 世界と比べた日本の医学研究のイメージ、意見

(2009年癌学会にて報告予定)

結果：医学研究の大切さの程度

- 医学研究の4分野に国の政策としての重点度で順位づけをしてもらったところ、「1番目」にあげられた率が最も高いのは《A)基礎研究》で半数の51.2%が“最重要”と回答。以下、《C)臨床研究》23.1%、《B)疫学予防研究》16.8%、《D)政策研究》8.9%の順。
- 順位づけを得点化してみると、総合的に“最重要”とされたのは《A)基礎研究》、次いで《B)疫学予防研究》《C)臨床研究》があまり差がなく続き、《D)政策研究》は大きく差をつけられて最下位となっている（《D)政策研究》が「4番目」=最下位との回答は71.2%と圧倒的、他の3分野に比べて極めて顕著に劣位であることが示されている）。

Q20.医学研究に関する国の政策としての重点度（各SA） 《全体》[N=2234]



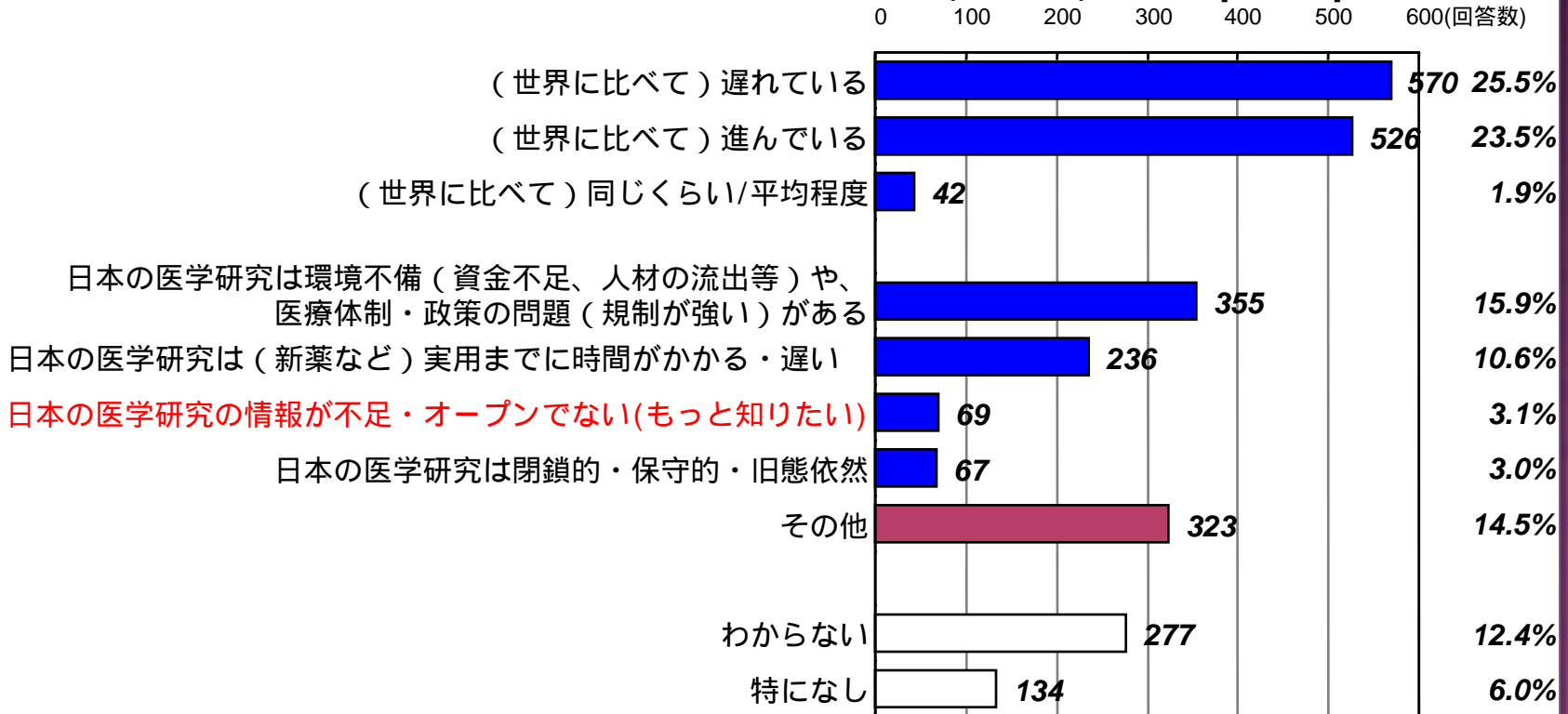
()内は平均スコア算出のために与えた値

■ 1番目(4) ■ 2番目(3) □ 3番目(2) ■ 4番目(1)

結果：世界と比べた日本の医学研究のイメージ、意見

- 自由回答からみると、（世界に比べて）「遅れている」が25.5%、「進んでいる」が23.5%で拮抗も、「遅れている」がやや上回る。
- 「進んでいる / 遅れている」の意見の両方に渡って頻繁に見られたが、日本の医学研究の問題点として、「環境不備（資金不足、人材の流出等）や医療体制・政策の問題（規制が強い）」との指摘が目立った。また、特に新薬の実用化を中心に、世界に比べて日本の医学研究は「実用までに時間がかかる」との意見も1割以上の方が挙げている。
- 「そもそも情報が不足しており、世界との比較などできない」「もっと医学研究についてオープンに知らせてほしい」といった類の意見も一定程度見られた。

Q26.世界と比べた日本の医学研究のイメージ、意見（FA->MA）《全体》[N=2234]



医学研究はどのくらい 新聞のニュースとなっているか

ㄨ 基礎研究

- | iPS細胞の例など多くの報道がなされている

ㄨ 疫学研究

- | 厚労省多目的コホート研究(JPHC Study)の例

ㄨ 臨床研究

- | J Clin Oncolのletterの紹介

厚生労働省多目的コホート研究(JPHC STUDY)* 研究成果の社会への公表の歴史 (因果関係を調べた論文100件程度について)

㊦ ホーム・ページに成果概要 (1999年～)

| <http://epi.ncc.go.jp/jphc/>

| 対象者へのニュースレター送付

| 取材動機は学会発表抄録や掲載雑誌のプレス・リリース

㊦ リサーチ・ニュース配信 (2004年4月)

| 一般向けのHP掲載の告知 (掲載後)

| 2007年3月頃までの50件程度の報道割合は100%

㊦ 報道関係者向けプレリリース開始 (2006年3月)

| 報道関係者に限ってHP掲載の予告 (掲載前) を開始

| 論文数の増加・内容の専門化などから報道割合が少し低下

㊦ リサーチ・ニュースの悉皆配信の中止 (2008年9月)

| 重要度の高いものに限定して配信

| 論文の報道割合は5-6割に

*JPHC studyは国立がんセンターがん予防・研究センター予防研究部が中心となってがん研究助成金により実施した観察疫学研究

厚生労働省多目的コホート研究(JPHC STUDY) ホームページ



更新履歴

2009年	
New 7.16	現在までの成果に コーヒー・緑茶摂取と肝がんとの関連について-概要-追加
New 7.16	現在までの成果の 刊行論文リストの更新
7.7	現在までの成果に 脳卒中・心筋梗塞の自己申告データの正

リサーチニュース

研究方法

調査結果

現在までの成果

班会議

講演会

関連書籍

研究班の構成

JPHC Study とは？

厚生労働省がん研究助成金による指定研究班「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究」(主任研究者 津金昌一郎 国立がんセンターがん予防・検診研究センター予防研究部長)において [全国11保健所](#)と国立がんセンター、国立循環器病センター、大学、研究機関、医療機関などとの共同研究として行われています。

パンフレットをPDF形式にて用意しましたのでご利用ください。

- [研究概要パンフレット](#)(1.4MByte)
- [多目的コホート研究の成果パンフレット](#)(10Mbyte)

(PDF形式ファイルをご覧になるには [Adobe Reader](#) が必要です。)

研究の背景

日本国民をその平均寿命(平成7年:男性 76歳、女性 83歳)以前に死に至らしめたり、生活の質を低下させる重要な原因になっている、がん・心筋梗塞・脳卒中などの成人病の発症には、食習慣・運動・喫煙・飲酒などの生活習慣が深く関わっており、生活習慣の改善によって、これら疾病の発症をある程度未然に防ぐことが可能であるものと考えられています。しかしながら、どの様な食事をすれば良いのか? 飲酒はどの程度が適量であるか?

10年後調査データ集



「10年後調査データ集」が発売になりました。詳しくは[関連書籍](#)のページで

5年後調査データ集

